道徳の時間学習指導案

指導者 三原市立中之町小学校

井手本 美樹

- 1 学 年 第4学年2組 27名
- 2 主 題 名 正直に生きる 1 - (5)
- 3 本時のねらい

だまってたこやきを食べているときのたけしの気持ちを考えることを通して、ごまかさず正直で誠実な行動をし、明るい心で元気よく生活しようとする態度を養う。

- 4 資 料 名 「正直」五十円分 (文溪堂)

- 5 主題設定の理由

明るい心で元気よく生活するためには、自分自身の良心の声に従い、ごまかしたりせず正直に行動することが大切である。しかし、実際には、自分の損得を考えた結果、自分の都合のよいように言い訳をして、自分勝手な行動をとる場合も少なくない。

中学年の時期は、特にうそをついたりごまかしたりしないことも含めて自分自身に正直であることの快適さを自覚できるようにする必要がある。児童は、行動範囲が広がり、学校や社会の人々とのかかわりも活発になってきている。また、善悪の判断もつき、相手の立場が理解できるようになるとともに、自分自身の心と向き合い、自分で考え、判断し、行動するたくましさが育ってきている。そこで、自分の行動を省みて正しい判断ができるようになるこの期に、正直で誠実な行動を選択する態度を育てることが必要である。正直で誠実な行動をすることによって満足感やすがすがしさを得ることができると気づかせ、明るい心で元気よく生活しようとする態度を養っていきたい。

本学級では、「『正直に言ってよかった』と思った経験がありますか。」のアンケートの設問に対して、48%の児童が「ある」と答えた。さらにその内容を聞いてみると、「かさをこわしてしまったときに、すぐに正直に言ったら怒られなかったのでよかった。」「弟を泣かせたことを正直に言ったらすぐに許してくれた。」「ほしいものを正直に言ったら買ってもらえた。」という答えが多かった。この結果から、正直に行動することに対してあまり積極的でないばかりか、正直に行動していると答えた児童も、「怒られたくない。」「何かいいことがある。」といった理由で正直に行動していることがうかがえる。

そこで、本学級の児童には、正直で誠実な行動をすることがいかに心を晴れやかにし、明るく元気な生活を送ることにつながるかということに気づかせ、正直・誠実に生きようとする態度を養いたい。

本資料は、二人の兄弟がおこづかいを持って買い物に行った時、お釣りが少ない・多いという問題をめぐりお店の人との温かいやりとりをほのぼのと描いたお話である。野球帰りにいつもやるお店で、おつりが50円少ないことに気付いたたけしとあつしは、損をしないようにすぐに返してもらいにいく。しかし、次の日、たこ焼きを買っておつりが50円多いことに気付いた時には、お金をそのまま財布に入れてしまう。弟に「どうする。」と言われたたけしは、(正直に行動しようかそれとも黙っておこうか)と思い悩むが、最後にはおつりが多いことを正直に話し、満足感とすがすがしさを感じる、という話である。

指導にあたっては、中心発問を効果的にする基本発問において、「もらったおつりをそのまま

財布に入れた時、たけしはどんな気持ちだったでしょう。」と問い、おつりが多いことに気付いても、すぐには返すことができないたけしの気持ちに共感し、言わなければ自分が得をするという立場について考えさせたい。中心発問においては、「だまってたこ焼きを食べながら、たけしはどんなことを考えていたのでしょうか。」と問い、自分に言い訳をして黙っておこうとする心と、正直に言おうとする心で葛藤するたけしの気持ちに共感させたい。たけしの揺れる気持ちを話し合う際には、ワークシートを使うことで、一人一人が自分の考えを持ち、「正直に言う」「言わない」という両方の感じ方、考え方について語り合えるようにしたい。また、友達の意見を聞くことによって、道徳的価値がどのように変化していったのかを見取っていききたい。

最後に、「『正直』50円分のたこ焼きがおいしかったのは、なぜでしょう。」と問い、正直に行動したたけしの晴れ晴れとした心情に共感することによって、正直で誠実な行動をすることによって得られる満足感やすがすがしさに気づかせ、明るいい心で元気よく生活しようとする態度を養う、というねらいに迫っていきたいと考える。

6. 準備物

場面絵，短冊，ワークシート

7. 活動の流れ

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	留 意 点
導 入	1 お小遣いについて考える。	ある学校の4年生の「お小遣いアンケート」です。お小遣いを何に使うことが多いでしょうか。 ・おかし ・ゲーム ・まんが	学習内容に興味・関心を持たせる。
	2 「『正直』五十円分」を聞いて話し合う。 おつりが足りないことに気づき、すぐに返してもらおうとする二人の気持ちを考える。	ジュースのおつりが足りないことに気づいたたけしは、どんな気持ちだったでしょう。 ・どうしよう ・このままじゃ、50円損をするぞ。 ・どうやって返してもらおう。 ・おばちゃんに、言って返してもらおう。	言わなければ「損をする」と思った二人の気持ちに気付かせる。
	おつりが多いことに気づき、すぐには返すことができないたけしの気持ちを考える。	もらったおつりをそのままさいふに入れたとき、たけしはどんな気持ちだったでしょう。 ・やったあ、得した。 ・だまっていたら、だれもわからない。 ・いまさら返すのもなあ。 ・50円くらい、いいかなあ。 ・このお金、どうしようか	言わなければ「得をする」という逆の立場に立ったことに気付かせる。
	たけしの心の中の、自分に言い訳をして黙っておこうとする心と、正直に言おうとする心で葛藤するたけしの気持ちを考える。	だまっていたたこ焼きを食べながら、たけしはどんなことを考えたでしょう。 ・どうしようかあ。 ・50円くらい黙っていてもいいかな。 ・おっちゃんが間違えたんだから、返さなくてもいいか。 ・おっちゃんが気づいたらどうしよう。 ・おっちゃんに返さないと、困るだろうなあ。 ・おつりが少ない時だけ言って、多いときは黙っているなんていけない ・50円返しに行こうかな。 ・やっぱり返そう。	ワークシートのハートに、正直に言う気持ちを赤で、言わないという気持ちを青で塗り、迷っているたけしの気持ちを考えさせる。 赤と青をどのような割合で塗ったかをもとに、たけしの気持ちを交流し、それぞれの感じ方の違いをはっきりさせる。
正直に行動したたけしの晴れ晴れとした心情に共感する。	「正直」50円分のたこ焼きがおいしかったのは、なぜでしょう。 ・心がすっきりした。 ・正直にすると気持ちがいいな。 ・正直に言ってよかった。 ・ほめられてうれしいな。	正直に行動したたけしの晴れ晴れとした心情に共感させる。	
3 これまでの自分の生活をふり返る。	正直に行動して、心がすっきりしたことはありませんか。 ・お店の人が数を間違えてくれたのを返したらそのままくれた。 ・拾ったお金を届けたらほめられた。	そのときの気持ちについても考えさせ、正直に行動することの大切さに気付かせる。	
終末	4 教師の説話を聞く。	先生の話を読みましよう。	ねらいとする価値を温める。